

探究通信

2019 (第1号)
富山県立高岡高等学校

2019年5月発行
編集 探究科学委員

今年度最初の『探究通信』は、新元号「令和」にちなみ元号に関する紹介と3月に実施された活動の報告です。

新時代「令和」スタート!

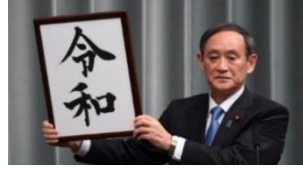
2019年5月1日、新天皇の即位に伴って、元号が「令和」となりました。新元号は、645年の日本最初の元号「大化」から数えて248番目となります。これまでの元号はすべて中国の古典を典故としていましたが、今回初めて、日本の古典から採用されました。

出典は『万葉集』巻5の梅花の歌三十二首あわせての序文の、
「時に、初春の令月にして、気淑く風和ぎ、

梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す」です。

元号の制度は、中国・前漢の七代皇帝武帝が、紀元前140年に建元したのが最初とされます。元号を改める「改元」は、天皇が交代するときやめでたいことがあった時、災いがあった時などに行われてきました。朝鮮やベトナムでも使用されてきましたが、現在、日本が唯一、元号を使用する国となっています。

越中の国司であった大伴家持が編纂に関わった『万葉集』からの出典で、「万葉のふるさと」高岡も、一躍脚光を浴びています。私たちも、今一度、地元の歴史や文化に目を向けてみませんか。



(https://www.sankei.com より)

☆ 元号トリビア ☆

★元号に使用された漢字
(総数 504)

- 1位 永 29回
- 2位 元・天 27回
- 4位 治 21回

・使用漢字は73種類
・「令」は今回初めて使用

★元号の使用期間

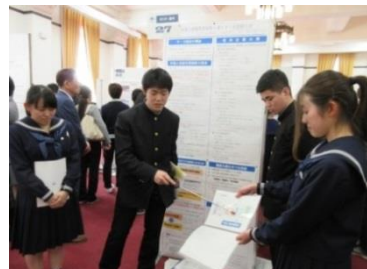
- <最長>1位 昭和 62年14日
- 2位 明治 43年9ヶ月
- 3位 応永 33年10ヶ月
- <最短>1位 暦仁 2ヶ月14日

※明治以降は天皇一代につき一つの元号とする「一世一元の制」となり、使用期間が長くなっている。

2019年3月 SGH 活動報告 ~他校生との交流・課題研究発表~



「第1回北信越SGHフォーラム」
3月15日(金)~16日(土)
<金沢大学角間キャンパス等>



「京都大学ポスターセッション
2018」 3月16日(土)
<京都大学百周年時計台記念館>



「全国SGH課題研究発表会」
【SGH甲子園2019】
3月23日(土)
<関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス>

【北信越SGH】他県の生徒と交流し、自分の至らない点を痛感することができた良い機会となった。価値観が違う仲間たちと協力して一つのものをつくり上げることから多くのことを学んだ。

【京都大学】研究の要点を数分で分かりやすく伝えることが大切だと言われたが、自分たちにはそのような発信力がないことを痛感させられた。大学へ行ってその力をつけたいと思った。

【SGH甲子園】何度も練習したので今までで一番良い発表ができた。一方で、研究内容をグローバルな視点に繋げることが難しく、もっと先行研究や関連分野の研究が必要だったと感じた。

第36回富山県高等学校生徒海外派遣事業へ参加

37H浅野稔基さんは、平成31年3月3日~14日の12日間、「台湾・ベトナムと富山県の経済・文化交流・観光振興—元気とやま 新時代を担うグローバル人材の育成—」をテーマとする富山県生徒海外派遣事業の団員として、台湾とベトナムへ行ってきました。

ホームステイ体験や現地の高校・大学での交流、「能作」(高岡本社)の現地法人やYKKベトナムの訪問、世界自然遺産ハロン湾やベトナム戦争証跡博物館などの訪問を通して、異文化に対する見聞を広めるとともに、海外で活躍するグローバル人材の資質について学ぶことができました。また、個人研修テーマとして「食を通じて日本と台湾を繋ぐ」を掲げ、台湾の「夜市」でフィールドワークを行いました。五感で楽しめる台湾の「夜市」の魅力の分析や富山への導入の可能性について考察しました。

<派遣団に参加して> 個人研究テーマである「夜市」については、富山とベトナムでは、食文化や食習慣、衛生観念等が異なり、同様のシステムをただ単純に導入することはできない、ということがわかりました。富山で行うには、屋台ではなく空き店舗を利用するなど工夫が必要だと思いました。また、ベトナムの高校生のなかに、英語、中国語に加えて、日常会話以上の日本語を話すことができる人がいました。将来外国で活躍したいという高い志を持って意欲的に勉学に励む姿勢に、大変大きな刺激を受け、貴重な体験となりました。



台北101の前で

2018年度 筑波-WISTEAM* プログラムに参加

26H屋敷陽さんは、平成31年3月21日~29日、筑波-WISTEAMプログラムに参加し、アメリカ合衆国カリフォルニア州で生物多様性や再生可能エネルギーに関する研修をしてきました。

Q1 印象的だった活動は?

初めての海外は全てが新鮮でした。なかでもソルトン湖では、農業用水による水質悪化で生物が生息できない状況になっており、人間の行為が環境を悪化させたことに強い衝撃を受けました。

Q2 今回の研修で感じたことは?

将来生物分野に進みたいと考えており、非常に貴重な経験ができました。また、アメリカは多様な言語や民族的背景を持つ人たちの集まりで、共通言語である英語ができないと、全く活躍できないということを強く感じました。

Q3 この経験をどのように生かしていきたいか。

今回一緒に参加した人たちは、皆志が高く、学習に対する意欲が上がりました。生物分野への関心も一層高まり、自然と人間の共生方法を追究したいと思いました。

DAY 1	羽田→ロサンゼルス国際空港
DAY 2	インディアンキャニオン
DAY 3	ソルトン湖&泥火山調査、 ハドソン地熱発電所
DAY 4	移動、教授宅でホームパーティー
DAY 5	ハービーマッド大学研修
DAY 6	クレアモント高校訪問
DAY 7	ロサンゼルス観光
DAY 8,9	ロサンゼルス国際空港→羽田



インディアンキャニオン

ソルトン湖

*WISTEAMとは「Women's Introduction to STEAM(Science, Technology, Engineering, Art, Mathematics)」。将来、理工系分野でグローバルに活躍したいと考えている日本の女子高校生の国際的視野や、進路選択の幅をひろげることを目的とした筑波大学のプログラム。

~編集後記~ 初めて探究通信の編集をしましたが、他の生徒の積極的な活動に触れたり時事に関する新たな知識を得たりと、今後の学習にもつながる経験ができてよかったです。(26H, 27H 編集担当者)